

# サーキット・ライダー2008年 1月号

## 上からの押し付けではなく自由な熱い思い

また、使徒たちの間に、自分たちのうちでだれがいちばん偉いだろうか、という議論も起こった。そこで、イエスは言われた。「異邦人の間では、王が民を支配し、民の上に権力を振るう者が守護者と呼ばれている。しかし、あなたがたはそれではいけない。あなたの方でいちばん偉い人は、いちばん若い者ようになり、上に立つ人は、仕える者ようになりなさい。  
ルカ 22：24-26。

新年にいつも感じることは日本でクリスマスには猫も杓子も「メリークリスマス」と言ってパーティー、飲み会に興じるがクリスマスが終わった途端歳末大売出し、正月の祝い、神社仏閣初詣に転じる身軽さ（軽さ！）です。アメリカではクリスマスが過ぎてもエピファニー（顕現節）が来るまではクリスマスの飾りを外しません。顕現節も聖誕物語の一節と解釈できるので、クリスマス精神は実際には1ヶ月以上も続きます。日本人には何故キリスト教が広まらないか？これは日本人牧師だけでなく教会に連なる者、日本宣教をしているアメリカや韓国の教会の大いなる疑問です。多くの人が分析し語ってきましたが、「これだ！」と言う答えはあまりありません。何故日本のキリスト教人口はいつまでたっても全人口の1%前後のままなのか？私は原因を日本の文化や歴史に探ります。何年か前にも同様な主旨で書きましたが、改めて日本人へのキリスト教伝道の難しさを考察してみたいと思います。

時代は16世紀中頃、日本にカトリック教会宣教師がかなり多く来て、瞬間に60万人とも70万人とも言われるほど信徒が増えました。これは勿論スペインやポルトガルの銃や近代兵器、文化を織田信長を始めとする諸大名が欲し、交換条件的に半ば暗黙の内にキリスト教の布教を許していました。また一向宗など武力を持った仏教徒たちへの当て馬的役割もキリスト教に期待していたという背景があります。その頃の布教はと言うと大名から下級武士、更には農民へと広がっていましたが、特に上の階級への働きかけが大きかったようです。日本は今も昔も「お上」の権力構造で、上役に弱い体質を持っています。トップダウンだとどんな難問で通ってしまう。民主主義の名の下に平等に議論を重ね物事を決めようものなら、いくら話し合っても埒が明かない。しかし、そのあまりにも急速な信徒の増加に、為政者達は、恐れるようになりました。特に残念なことに教会はヨーロッパの侵略政策の片棒を担がされていた事実は消しがたいもので、秀吉、家康などの「お上」はキリスト教禁令、異国人追放を執行しました。1639（もしくは41）年、家光の時代、キリスト教は完全に表向きは抹殺され、異邦人の出入りも出島のみになります。

その「お上」がキリスト教を恐れる傾向は250年経った明治政府にもありました。徳川幕府から明治新政権になり鎖国から開国と変わり、外国人が自由に出入りできるようになり、今度はカトリックに代わりアメリカやヨーロッパのプロテスタント教会が盛んに伝道を始めました。さて明治政府は秀吉や徳川將軍達と同じように、日本がキリスト教化されていくことを恐れ、欧米からは技術や産業、文明だけ、言わば外観だけ取り入れることに努め、中身、つまり欧米文化の真髄であるキリスト教、思想をできるだけ排除しようとしてきました。そのために政府はアメリカやヨーロッパから反キリスト教の旗頭にしようと、ダーウインの進化論を教える科学者や技術者多く招き、思想的にも社会学に進化論を発展させたイギリスのスペンサーなどの教えを広めるべく社会進化論学者を思想史の教授として招き帝大（現、東大、京大、阪大、北大など）を創立しました。日本美術の保護、発展に多大なる貢献をしたアーネスト・フェノロサも実は社会進化論を教えることを前提に招かれました。一方宣教師達は教会伝道だけでなく子供や女性の教育、慈善にも力を注ぎました。そちらの方は「お上」も承認していたので、今日の有名ミッション・スクールや大学の多くが明治、大正の宣教師達によって創設されました。またキリスト教と言うと単に「慈善」「悪いものではない」「恵み」と思っている人が多いのはその為です。勿論、それも間違いではありませんが、この「お上」の方針が本来の「魂の救い」「伝道」を弱めてしまうという弊害を生じさせました。

更に第二次大戦前、中は軍事当局が天皇現人神の下、宗教思想統制をし、キリスト教は再度弾圧されました。これらのことから言えることは「お上」が歴史の中でキリスト教を迫害し統制したということ。それがそのまま日本人の伝統、体質に染み込んでしまったということ。日本人は「お上」天皇や將軍、時の為政者は絶対的な存在であり、物事がトップダウンで来ると自由に思考し発言する以前にただそれを受け入れてしまいました。時折、若い世代は古いしきたり、伝統、格式などに逆らってみたり、親方、ボス、また親に逆らったりもしますが、それはあくまで大勢、体制に影響しない程度と言ったところでしょうか。

もう一つ日本文化、歴史を学ぶと見えてくる傾向があります。それは外国から借りてきて自分流にアレンジするという。古くは6世紀の聖徳太子の仏教を礎とした国づくりにまで遡りますが、外国から外枠、型を持ってきて自分たちの政治、文化のモデルにする。いつの時代も日本人は外国から芸術、文化、技術を学んでは自分たちのものとしてきましたが、その本質である宗教、思想、哲学、考え方を理解しようとはしませんでした。唯一の例外は仏教で、あとは皆外観ばかりで中身なし。今のポップ・カルチャー、音楽などを聴いていると、何だか欧米の流行のマネにしか聴こえないのですが、それはあながち私が歳をとってきたからだけではないと思います。

さてイエスの弟子たち（彼らは漁師、徴税人、熱心党（右翼？左翼？）など社会的には地位の低かった人々）でさえ、「自分たちの中で誰がいちばん偉い？」と議論をしていました。しかもこの議論はイエスが捕まり十字架に掛けられる直前の緊迫した空気の中で繰り広げられています。イエスに付き従った彼らでさえ人間の権威、地位や身分などの上下関係を欲していたのです。私たち人間の愚かさをこの弟子たちに見ることができます。主イエスも内心どれほど辛く憤ったことでしょうか。貧しい者たちの為、人々から嫌われ迫害されてきた病人や罪人の救いの為に日夜神の御業を行ってきたにもかかわらず、自分の一番身近な所において、自分の言葉を聞き伝道を共にしてきた弟子たちがこの有様ですから。神の栄光、力とは人間の「お上」のような時代と共の崩れるようなものではなく、変わらないものであり、いつも民衆の底にある。そのことを教えるべく、イエスは上述の話をされました。

「仕える者になる」と口で言うのは簡単ですが、実際には私たちは軽く扱われるとすぐに怒るようなプライドの高い、悪く言えば傲慢な存在です。本当に謙り誰にでも同じ態度で臨み、神に仕えるように人にも仕えるようになったらどんなに素晴らしいだろうと思います。「お上」からのトップダウンではない、自由意志で信仰を持ち、仕える者となる。実はそれこそが真の自己発見、変革ではないか、と思う正月です。未熟者ですが本年も宜しくご指導下さいませよう願ひいたします。

吉松 純

礼拝は日曜日午後4時です。Jr. 教会（日曜学校）も4時からです。

- 1月 6日：礼拝、聖餐式、Jr. 教会、書初め
- 13日：礼拝、Jr. 教会：ハンドベル練習と切手整理
- 20日：礼拝、Jr. 教会：キング牧師物語を知る
- 27日：礼拝、Jr. 教会：自由
- 2月 3日：礼拝、聖餐式、Jr. 教会：節分の工作
- 2月 6日：灰の水曜日合同礼拝（英語）、午後7時。Westwood, Hillsdale, Park Ridge の3つの合同メソジスト教会合同で受難節の始まりに礼拝を持ちます。場所は2月号でお知らせします。

#### 行事予定と報告

- \* 洗礼準備聖書勉強会：毎週日曜日礼拝前の午後3時より。洗礼を受ける決心をしたかた、またまだ迷っている方、何も分からない方、皆歓迎します。
- \* 毎週月曜日、午後7時：ハンドベル聖歌隊（英語）。
- \* 毎週月曜日、午後7時—9時、祈りのため教会を開けています。8時30分から牧師と共に御言葉を分かち合い祈ります。
- \* 毎週火曜日、午前10時：聖書研究会（英語）。パウロの書簡を学びます。
- \* 毎週木曜日、午後7時：聖歌隊（英語）。英語が苦手でも讃美できます。どなたも歓迎。
- \* ユース（中高生会、英語）は第二、第四日曜日の午前9時。

#### お知らせ：

- \* 感謝祭、クリスマス時に献金をお送りくださいました皆様、献金感謝の手紙はお送りしていますがこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。会計報告は秋の年次総会に出していますが、年度予算、献金総額をお知りになりたい方は吉松牧師までご連絡下さい。コピーをお送りいたします。

御協力お願い致します。献金のあて先はUMC-JAとし、寄付のあて先をNoteに記してください。

- \* ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。
- \* 消印のついた切手の周り1センチの余白を残して切り取って下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（JOC S）に送ります。JOC S海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。
- \* ケニヤの恵まれない子供達やエイズ患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。
- \* パターソンのSt. Philip 伝道と社会福祉団体CUMAC/ECHOの為に。どちらもメソジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと路傍伝道をしています。

連絡先：英語オフィス(201) 391-5499 日本語オフィス兼ファックス (201) 505-0347

吉松牧師 (201) 391-2208 [junyoshim@optonline.net](mailto:junyoshim@optonline.net) 代表役員：松尾孝恵姉 [Takae17A@aol.com](mailto:Takae17A@aol.com)

教会学校担当：吉松 泉姉 [izumi.yoshimatsu@gmail.com](mailto:izumi.yoshimatsu@gmail.com) ホームページ：<http://umc-japan.org>